

往航。黄白嘴燈臺ノ北東一哩ヨリ半島ヲ距岸約一哩ニ續航シ小島老尾島ノ中間ヲ

通過シテ老鉄山燈臺ノ南方四五哩ニ出テ此ヨリ一二五哩ヲ航シテ沙壘田島

ノ南五哩ニ達シ大若燈船至ル航程一七四哩天連内蒼至大若燈船一七八哩

復航。往航路ヲ逆航ス

(2) 本航路上ニ於ケル氣象潮流ノ影響

大連湾ヨリ老鉄山水道ニ至ル潮流ハ第一編記載通りニテ相當強流シ老鉄山水道ニ於テハ流速殊ニ大ナリ、而シテ西流ト東流トハ明カニ流速ヲ異ニシ轉流時亦一時間内外ノ差アルヲ珍シカラズ、加フルニ艦位左右ニ倚マラレ勝レル等此間ノ潮流ニ関シテハ相當ノ注意ヲ要ス、老鉄山燈臺南西方ノ潮流ノ海岸ニ沿ヒ強流ス、老鉄山水道ヨリ沙壘田島ニ至ル渤海ノ潮流ハ不規則ニシテ明カニテリシ共中央部ニ於テハ概シテ微弱ニシテ本航路上ニ於テハ僅カニ南北ニ倚位スト云フ、沙壘田沙堆附近ニ至レハ其ノ縁ニ沿ヒ強流ス

(3) 險礁

沙壘田淺堆ノ南側急深ニシテ視界不良ノ際測深ハ何等ノ警告戒トナサレハ以テ最モ注意ヲ要ス、又沙壘田島附近ノ漁柵ハ同島ヨリ起リ西方一二五哩間ハ五尋界線ノ内測ニ接シテ数列ヲナシ延亘スト云フ

(4) 目標

大連湾口附近ハ島嶼ニ富ミ艦位点出ニ便ナリ殊ニ老尾島ハ著ニシテ識別容易

易ナリ、半島山峰中稍顯著ニテ利用シ得ルモノハ

大峯 $\Delta 1015$ 莊蹻山 $\Delta 1299$, $\Delta 1281$, 老鐵山 $\Delta 808$

大孤山 $\Delta 640$ 老頭山 $\Delta 659$ 老鐵山 1395 等ナリ

旅順表忠塔ハ晝夜ヲ問ハズ半島沿岸航行時ノ好目標ニテ其燈光ハ通常ニ
埋一三五哩ヨリ認メラル、老鐵山燈臺ノ光芒ハ四ニ哩ヨリ認メラルトアリ、

大沽燈船ハ附近ニシヤク多ク遠距離ヨリ發見困難ナリ、而シテ十二月至三月ノ結
氷期間撤去セラレ碎氷船ヲ代置シテ燈船ノ用ヲナサズルモ荒天時及炭水補給
等ノ場合ハ不在ノコトアリ

一、大連 至 然呂口 (半莊燈船)

(1) 航路

本航路ニ於テ注意スベキハ遼東半島南岸ノ潮流並 *Bistern's kullens* 及
此ヨリ遼河口南方ニ至ル淺堆ナリ、殊ニ *Bistern's kullens* ノニ尋堆外方ハ急
深ニテ航路附近ノ水深ト変ナキヲ以テ注意ヲ要ス

往航。大連灣口至老鐵山高角間ハ前記大連至天津航路ニ同じ、老鐵山燈臺
ノ南西約三哩ヨリ小龍山島 $\Delta 1015$ 西方四五哩ヲ經テ關東灣沖五五尋

堆ノ内方ヲ航シ長興島北角ノ北西約九哩ニ達シ此ヨリ *Bistern's kullens*
沖約四哩ヲ經テ *New's channel* 燈船ニ直航ス航程大連内港ヨリ一六六哩
復航。往航路ヲ逆航ス

(2) 氣象潮流

沿岸

營口附近ニ至レハ霧ハ常方面中最モ少ク又特ニ季節的特徴ヲ見ズ霧日數ハ年僅カニ六日ナリ風ハ一般ニ日中風向ノ變化多キヲ特異ノ点トシ冬ニ於テハ魚接大陸ノ影御音ヲ受テ天候ノ變特ニ著シクモアルガ如シ遼東半島北西岸ノ潮流ハ相當ニ強キモノ如ク遼河口附近ニ於テハ殊ニ流速大ニシテ漲潮流ハ落潮流ニ比シ一般ニ強流ニ風ノ影御音モ亦大ナリ

(3) 險礁

Bittern Spalden 及其北方遼河口ニ至ル間ハ處々ニ沙堆存在スヲ以テ強風時航路ノ東方ニ壓流セラレザルヨリ

(4) 目標

老鉄山高由ヨリ長興島ニ至ル間ハ島嶼多ク位置ノ点出ニ困難ナラス長興島以北ニ於ケル顯著ナル目標ヲ列挙スルハ次ノ如シ

塔山 Δ 1081 太山 Δ 1014 駁 駁山 Δ 1020 (奇形) *Gladius Pt 2560*

Sangju Head 4440. Vansittart's Saddle (方形塔) Tower Hill 塔

Keigei Coal

老鐵山燈臺ハ其光芒ヲ三四哩一四二哩ヨリ其ノ燈光ハ三三五哩ヨリ認メラル旅順表ニ塔ノ灯光ハ通常三三哩一三五哩ヨリ認メラル此ノ兩者ハ半島北岸ニ於テモ利用シ得ベシ牛莊燈船ハ密蒙天又ハ霧天ニ自働アセリニ霧務砲ヲ發ス又略ニ

三〇

月一五日至四月一日間結氷爲撤去セラレ圓柱浮標ヲ代置ス
八、大連至安東（W浮標）

(1) 航路

往航。内港々ヨリ内水道、中央ニ向ヒ水道ヲ通過シテ險礁ノ南ニ至リ此ヨリ
外長山水道ノ中央ヲ經テ五馬島ノ南々東約三五哩ニ達シ五四哩ヲ航シテ
西水道、W浮標ニ至ル。航程大連内港ヨリ一ニ。哩
復航。往航路ヲ逆航ス

(2) 氣象、海潮流

霧ハ西方ニ多ク東方ニ少ク年霧日数大連三日ニシテ龍巖浦五日ナリ風ハ大陸
直接影響日大ニシテ五六七月ノ南風ヲ除キ冬季ヲ中心トスル北風多クシ
潮流ハ内水道至險礁間ハ比較的強クニ五節一ニ。節ニシテ一般ニ漲潮流（南
西流）ハ落潮流（北東流）ヨリモ大ナリ、險礁至裏長山列島間ハ略南西方及
北東方ニ流レ流速一節一ニ。節ナリ、外長山水道於テハ略南北ニ流レ流速
ニ々節内外トナリ此ヨリ東スルニ從ヒ再ビ流速ヲ増シ東部ニ於テハ漲潮流（北東
流）ハ一五節落潮流（南西流）ハ二節ナリ、然レ共此等ノ潮流ハ風ノ影響ヲ受
ルフト大ニシテ転流時、流速及流續時間ニ大ナル差ヲ見ルコトナリ

(3) 目標

大連湾外ニ於テハ老鐵山（大和尚山）ヲ第一ニ、D.F. 881、(附) D.F. 1050 及

遠く見下る。顯著ナリ。險礁燈臺ハ比較的貧弱ニシテ晝夜共視認距離大ナズ。外長水道ニ於テハ島嶼多クシテ位置ノ点出ニ困難ヲ感セス。然レ共大連湾口ヨリ此ノ附近一帯ハ週年煙霧多ク霧季又濃霧頻繁ニシテ小尤ト多シ。鴨綠江口ニ接近セバ大鹿島最モ顯著ニシテ其トハハ雙項尖形ナリ。馬島燈臺ハ光カ微弱ニシテ實際ハ二哩附近ヲモ視認シ得スト云フ

九、天津（大沽燈船）至營口（牛莊燈船）

(1) 航路

往航。大沽燈船ヨリ沙壘田島ノ南方約五哩ヲ経テ青河口沖ニ尋堆ノ南方約八哩ニ至リ此ヨリ一七七哩ヲ航シテ牛莊燈船ニ至ル航程西燈船間ニ三哩

復航。往航路ヲ逆航ス

(2) 險礁

沙壘田島淺堆ニ関シテハ前説セシ如シ。沙壘田島ヨリ樂河口ニ至ル海岸ハ変化シテ現海面下ハ相違スト称セラレ此海岸ニ近寄ルハ非常ニ注意ヲ要スト云フ。青河口沖ハニ尋ノ淺堆アリ附近水深深シ又紅石嘴ノ北西方約二哩ニ沈船アリ

(3) 目標

沙壘田燈臺ハ高サ四二呎光達距離ニ二哩ニシテ三秒間ニ。三秒ノ一閃光ヲ發ス故ニ牛莊燈船ニ至ル航路上ニハ確實ナル利用困難ナル可シ先沙口附近ノ海

岸於テハ辰氣樓現象アリト云フ而テ附近一帯ノ海岸ハ極メテ卑低ニテ何等顯著ナル目標ナシ、遠東半島北西岸ノ目標ニ関シテハ前述ノ通りナリ

第三編 港灣河川

一 海州灣及附近

(1) 海州灣

海州灣ハ北東—南東ハ風波ニ曝露シ且遠浅ニシテ其ノ尋界ハ遠ク沖合ニ諸島附近ニ達ス、灣首仍々山(又峯山)ハ其北方嶺頭山ト共ニ北方ヨリ入港時仔目標ニシテ錨地ハ其五〇度五哩水深五尋底質泥附近ヲ適當トスベシ(球磨ハ昭和六年五月此錨地ニ碇泊セシガ圖上水深ハ殆ド實際ト一致シ底質沙泥ナリ)然レ共偏北西風時ハ嶺山頭側ニ避泊スルヲ可トス
仍々山ノ南東方西連島及雲臺山ハ東方ヨリ入港時ノ仔目標ニシテ沖合諸島(車牛山、達山、平島)ハ何レモ四五米—七〇米ノ低島ナリ、而シテ此等ノ目標モ春期初夏ノ候ニハ屢々濃霧ニ蔽ル、又四月—五月ノ漁期ニ至ルハ附近沿岸一帯ハ距岸三哩—七哩概ネ七尋界ノ沖合迄漁網漁柵多ク其沖合諸島ト中間亦邦人機船底曳網漁場ニシテ所謂海州海賊ハ此附近ニ出没ス

(2) 臨洪江

前記海州銘地ハ青島大港埠頭ヨリ九二哩ニシテ上海港上界ヨリ四〇二哩アリ

臨洪江ハ海州灣首ニ注流シ江幅約五〇米江口閘州ノ水深約一呎江口於テ五呎ニシテ上流ニ至ルニ從ヒ漸次江幅水深ヲ減ジ江口ヨリ約八哩大浦於テ江幅約一丈。米水深四呎ナリ。大浦ハ現在隴海鐵道ノ終點ニシテ所謂海州ノ埠頭地ニ當リ碼頭五箇アリ。高潮時(大潮升約一呎)ヲ利用シテ吃水三呎一五〇噸汽船ヲ通ジ以テ水陸ノ連絡ヲナシ上海及青島トノ交通比較的頻敏ナリ。然レ共此等汽船ハ河川用特殊淺吃水船ニシテ低潮時於テハ河底ニ坐シ船腹ヲ露出シテ荷役ヲナシツアリ

(3) 民便河(名灌河)

更ニ上流約四哩新浦ハ附近商業ノ中心地ニシテ人口約三萬アリ。噸以内汽船及大型戎克ヲ通ズ。昭和六年五月球磨内大艇ハ此地ニ溯江セリ
海州ハ其上流三哩ニ在リ人口約五萬支那式旧市街ニシテ附近政教ノ中心ヲナス

瀋陽(Shenyang)ハ西連島ノ南東方約二四哩ニアリ揚子江以北沿岸ニ於テ最初ノ目標ニシテ閘州信號所アリ。民便河ハ即本島ノ南西方約三哩ニ開クス。昭和六年五月駝逐艦芙蓉ハ上流約二天哩响水口ニ溯江セシガ上海及青島响水口間ノ交通相當頻繁ナルモノ如ク其水利ノ大ニテト將來注目ニ値スモノアリ。同日球磨ハ關山ノ度一〇五哩ニ碇泊セシガ銘地ノ水深底質ハ殆んど我海圖ニ符合セリ

河口閘洲ノ水深ハ約七呎ニシテ大潮升約三呎ナルガ如ク小潮升約七呎ト稼セラレ河口
ヨリ响水口ニ至ル間水深ハ概ネ一八呎一西吹内外ニシテ响水口ニ於テ大潮升四呎
一九呎アルガ如ク航洋汽船ハ此地迄溯航シツヤリ
沿岸ニ於テハ江幅、水深ヲ示セバ次ノ如シ

地名	河口ヨリノ距離(哩)	水深(呎)	江幅(米)
閘洲	七	七	
江口	〇	七	二五〇〇
燕尾港	一八	二〇	七〇〇
小嶗港	三八	二〇	七〇〇
堆溝港	四八	二〇	六五〇
陳家港	八八	二二	六五〇
响水港	二六〇	一八	二二〇

(4) 臨洪江及民便河調査資料

河口淺洲及水路ノ現状其他ハ左記ニ就キ調査シ得ラルベシ

臨洪江

協定一氏(青島海州間定期航元泰(船長))

青島海事協會申介ス

清水英太郎氏(海州錦屏鉄鑛公司邦人代表者)

民便河

中川源一氏(上海民便河航路航靜順(船長))

上海海運公司在籍

(5) 青島至海州間ノ目標

二青島港及附近

(一) 膠州湾

膠州湾は南へ小珠山を脈、尖端は海西半島、脚は石嘴、北へ嶗山を脈、尖端は卑低、青島半島、團島、嶗山の間、其幅は五里あり、湾内は廣さ三里、ニシテ圓形ヲナシ、大小ノ船舶ヲ泊スルニ適ス。湾口及湾内南部ハ水深一尋乃至三尋アレ共湾内北西部及北部ハ廣闊ナル淺灘及平灘充塞ス。

(二) 青島港

(一) 港界並港則概要

第一條 青島港、港區ハ大平島(俗稱湛山岬)ト南嘴(象嘴)トの間、顯浪嘴ト、黃山嘴トの間、黃山嘴ト孤山角(岬)トの間ニ各一直線ヲ引キ、此三直線以内、水面トス。

- 大橋島立標
 - 嶗山 Δ1679
 - 大珠山 Δ1674
 - 嶗子山 Δ120
 - 杜道山 Δ1076
 - 瑯琊山 Δ600
 - Δ282
 - 嶗頭著樹
 - 河山 Δ2092
 - 西龍山 Δ1372
 - 孤金山 Δ756
 - 嶗頭山 Δ1058
 - Δ1390
 - 大吳山 Δ1208
 - 嶗山 Δ1499
 - 北雲台山 Δ1998
 - 西連島 Δ1172
 - 胸山 Δ1416
 - 東嶗山 Δ287
 - 西嶗山 Δ279
 - 關山 Δ124
 - 東牛山 Δ231
- (註) 傍線ヲ附シタルモノハ特ニ顯著ナリ

第三條

港区内團島鼻(西側)ト脚子石嘴トヲ連スル直線ヲ内外港ノ界線トシ以東ヲ外港以西ヲ内港トナス

第三條

内港ヲ分チ大港船渠港小港及停留區(前記三區及大港小港ノ出入航路ヲ除ク以外)ノ四區ニ分ツ

第五條

青島港停泊區域ハ港政司於テ特別許可シモ外ハ左記四區トス

- (1) 大港 船舶停留區
- (2) 小港 船舶停留區
- (3) 外港及停留區 各船ノ自由停泊區トナス
- (4) 船渠港 本商埠官有各船ノ停泊區トナス

第六條

凡テ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テ内港ニ入セントスル艦船ハ港政司ノ特別許可ヲ終ルヲ要ス豫メ該許可ヲ受クニ非ラズ夜間内港ニ出入スルヲ得ズ

第三條

青島棧橋ノ尖端ト青島ノ西端トヲ連スル一直線及其延長線以東ノ外港區ニ於テハ艦船ヲ碇泊シ並ニ捕魚上沙採掘等ヲ行フヲ得ズ

備考

- (1) 大港出入心得 (第一〇二二二一八條)
- (2) 内港ニ於テハ每艇ハ艦船ニ航路ヲ讓ルル件 (第一九條)
- (3) 港内物品投棄禁止ノ件 (第二三條)
- (4) 航路標識保護ノ件 (第二六條)

(ホ) 檢疫 (第三七、三八、三九條)

(ハ) 本港則テ軍艦ニ適用ノ件 (第五〇條)

(ニ) 艦艇爆發物積卸シノ件 (第五二條)

(シ) 艦艇入港ニ際シ本則準用ノ件 (第五三條)

(イ) 規約信號 (第五四條)

(2) 錨地並枝錨禁止區域

青島港錨地ニ外港錨地トシテ舊青島灣錨地即青島燈臺、南西方海面並内港錨地トシテ團島嘴ヨリ浪滄島石至ル青島半島ノ西方海面於テ航路ノ東方錨地及航路ノ西方錨地又浪滄島石燈標ヨリ大港至ル大港出入航路ノ北方錨地アリ 何レモ底ニテ粗砂礫ヲ混ジ水深適良錨搔良好ニテ潮流ハ約一五節ナリ此等ノ錨地中枝錨禁止區域ハ外港ニ於ケル青島棧橋突端ト青島西端ヲ連スル一線以東ノ外港區及内港ニ於ケル大港ニ出航路トシテ外港錨地ハ青島ノ南西方檢疫錨地ヲ主トスル其南方及西方海面ニシテ青島礁下安サノ外險礁ナリ水深底質亦適良ニシテ内港ニ比シテ四圍ノ風光明媚夏季ハ冷涼ナリ本錨地ハ九月ヨリ翌年二月ニ至ル秋冬間流行強吹スル北西風ヲ防カテ以テ所謂冬季泊地トシテ好適ナリ三月以降ハ最多風向南偏シ漸次霧ヲ發現スルモ未ダ甚シカラズ偏北ノ強風尚五月迄突發スルヲ以テ此季迄ハ本錨地ヲ有利トスベシ然レ共

六月ニ入ルハ風系殆ド全ク夏季ノ配置トナリ南乃至南東風流行強吹シ長
 濤亦自由ニ浸入シテ不快且短艇ノ發着等不便ナルヲ既ニ濃霧日取
 盛期ニシテ檢疫錨地ヲ出入スル船舶ノ危険ヲ感スルト多ク故ニ六月以降ハ
 内港錨地ヲ有利トスベシ内港錨地ハ六月ヨリ九月中旬ニ至ル夏季偏南風
 流行強吹時ニ於テ泊地ニ適シ其團島嘴ヨリ浪滄島石ニ至ル間ニ於テ航
 路東方錨地及航路西方錨地(西方 *Middle ground*) 及北東方陰島淺
 灘ヲ避ケテ北西方海面ニ及ブ)ハ夏季歐米艦隊ノ常用錨地ニシテ大港
 出入航路ノ北方錨地ハ大港出入汽船ノ假泊地ニシテ我警備艦ノ夏季常用
 錨地ナリ

註(1) 軍艦球磨ハ昭和五年(自七月四日)及六年(自七月十九日)ノ間内港在リテ
 至九月十日

大港起重機 8500 15000 ヲ其常用錨地トシ其他ノ時期ハ外港在リテ

青島燈臺 250 30 fathom ヲ其常用錨地トセリ

(4) 中國海軍ハ夏季南東信風期間作業地トシテ脚子石嘴ト菴姑石
 トノ間ニ碇泊ス

(3) 氣象(青島割候所發行「青島」を基準として見たる山東省の氣象)ヨリ

青島ハ夏冬ノ信風が盛ナ爲其氣候ハ全ク之依ツテ支配サレテ居ル即チ
 毎年四五月カラ一〇月半頃マデハ黃海カラ来ル S 信風旺盛デアルカラ海洋的ノ氣
 候トナリ大氣ハ濕氣ニ富ミテ降雨セ一年分ノ九割近ク此ノ季節ニ降ルベアル

又降雨ハ大部分驟雨性ノモノデ日本各地ト比較スルハ之ヲ至^レ三當^ニ過^ギヤイ
 量ヲアル此ノ季節ニ最^モ顯著ナルハ海霧ノ籠系ヲアテ之レハ信風カ北上
 スル途上次第ニ冷タラナリ居ル海面ニ冷却セラレテ出來ルモノデ年ヨリニ三月頃
 カラ盛ニ發生スルコトマルガ例年最^モ頻^ニ發^スルハ六月七月デ月ニ一〇數日ヲ算
 フルコトモアリ年中最^モ不快ヲ覺^スル季節テ屢々近海ノ航行カ不能トス事
 カアル。然^レ此濃霧ノ例年ノ月末止^テ其後ハ連日ヨリ晴^レ全ク盛夏
 ノ候トルガ一方南東ノ信風ハ海上ノ涼味ヲ齎^ラシ屢々驟雨モマツテ暑
 氣ヲ裁殺スル。然^レ濕氣カ多ク爲^ニ霧ノ終^リ前後ニハ溫度ノ昇^リ又割
 合ニ蒸^シ熱^クサ^リ感^スル日カ多ク。最高溫度トシテハ例年三三三度デ三五度ヲ
 超^エテ事ハ一二年間ニ二度アツクミテアル。何ト言^フテモ一步内陸ニ入^ッテ暑氣ト
 ハ比較ニテライ凉^シサ^デ明^ク眉^ノ風光^マ清^冽ナ海水浴場ト相俟^ツ此ノ地ヲ好
 避暑地トシテ有名ナラシメテ所以テアル

一二月カラ翌年三月迄ハ北西ノ信風期テ大陸内カラ吹^イテ來^ル風カ優^ク熱^カナル
 カラ空氣ハ非常ニ乾燥シ雨雪モ亦尠ク連日清澄ナ天^氣カ續^ク其^クガ一二二月
 ノ酷寒期ニ屢々猛烈ナ北風カ起^リ秒速ニ六米ヲ超^エテ最^モ敢^テ珍^クシ
 ナイ。最低氣温ノ顯^ハルニ此暴風吹^キ荒^フ時テ寒暖計ハ極^ク多^ク稀^ク
 氷点下五度ヲ降^ル程度ヲアルガ人身ノ感覺ハ風勢カ大キイト空氣カ乾
 燥ニテ居^ルトテ大^キニ凜烈サヲ加^ヘルデアル。然^レ一方ニ於^テ又不規則カ

三五

(4) 潮流

所謂三寒四温ノ現象ガアリ温カイ南風ニ息ツク事カ出来ルベアル、而シテ
 此季節ニ盛ニテ支那名物ノ黄塵ニ地勢カ上青島附近ハ輕微テ回数ニ甚
 タ少イ又青島地方カラ漸次南ニ赴クニ從テ夏季颶風ノ襲來スルトガ多ク
 ナリ、北ヘ向テ所謂大陸旋風ガ通過スルトガ多クナリ、青島地方ハ恰モ其
 中間ニテ學ニ其餘没ラ受クルニ過ヤナイ

外港錨地附近ニ於テハ灰泉毎ヨリ青島礁ニ至ル線ヲ北緣トシテ概テ東微
 南、西微北方向ニ流シ其流速約一五節ニテ大約高低潮時ニ轉流スルニ
 西流ハ比較的正確ニテ強ク東流ハ時トシテハ一乃至一五時間後ニ且稍弱シ
 團島嘴附近ハ三節強トナリ競潮スルニ内港錨地附近ニ於テハ一乃至二
 節ナリ、又北沙南沙以東ノ港外ニ於テハ概テ北東南西方ニ流シ流速一
 五節内外ニテ略高低潮後三時間ニ轉流シ山東半島南岸ノ外界潮流ト一致ス
 本潮流ハ青島出入航路ヲ横過スルカ故ニ屢々出入船舶ニ意外ノ南北偏位
 ヲ與スルヲ以テ警告戒ヲ要ス

(5) 顯著ナル目標

嶺頂山△484 約骨堂(表忠塔) 見張屋頂△337 測候所屋頂
 發電所大煙突 青島燈臺 團島嘴燈臺 浪滄島石燈標
 大港第四埠頭起重機

三、太清宮灣及附近

(1) 總記

太清宮灣 (Tai ching Kwang B) は膠島沖西方に三哩 Steep Island、北東方約三哩一位に中國東北海軍、久松訓練地ニシテ一名勞山灣根椽地トシテ知らレ夏季脚子石嘴西方ノ海西灣ト共ニ利用サレツアリ 昭和四年三月東北海軍副司令沈鴻烈ハ我第二遣外艦隊司令官ニ對シ爾今勞山灣根椽地ハ軍港地帶トスルニ付豫告ヲテ入港スルヲ拒否スル旨通告ト來リ名爲ル來第二遣外艦隊ニ於テハ本通告ヲ尊重シツアリ

(2) 地勢

北側ニ勞山々脈ヲ背ヒ其溪谷ニ向ヒ△形ニ凸入セルノ海灣ニシテ能ク北東―北西ノ諸風ヲ遮蔽シ距岸至近ノ所迄障壁ナク水深一尋―七尋沈底ニシテ錨碇良ナリ

(3) 泊地並潮流

支那東北艦隊旗艦海折ノ灣ノ北東側山丘ニ立標線上一ニ於テ北西側山丘ノ立標ヲ正横ニシテ碇泊ス 軍艦球磨ハ昭和五年九月並昭和七年五月上陸場旗杆ノ177°/1500m附近ニ錨泊セカ水深一尋底質砂泥ニシテ錨碇良ナリ 附近ノ潮流ハ最大ニ節弱ニシテ漲潮流ハ低潮後三時ヨリ高潮後三時迄西流シ落潮流ハ高潮流後三時ヨリ低潮後三時迄東流ス

(4) 上陸場

湾首ニ小堤ヲ築キテ僅カニ短舟ノ達着ニ備ヘ附近ニ信號行ヲ設ケル外
永久的設備ヲ有セス

(5) 腰島湾

腰島湾ハ腰島岬ノ北西方ニ湾入セル湾ニシテ湾首ハ稍長距離ニ亘ル礫
濱ナリ高サ之四三呎耳北麓ニ青山ト稱ス村落アリ住民ハ漁農ヲ
營ミ其海岸ニ築造セル突堤ハ東方ヨリ波浪ヲ防ギ漁舟ト共ニカサシ
ノ出入ニ適ス

四 威海衛

威海衛港ハ南岸趙北嘴ト其北西方五五哩ニ北山嘴トノ間ニ於テ本陸ニ深
入セル一開湾ニシテ其湾口ニ劉公島アリ以テ本港出入航路ヲ西口及東口ニ分ツ
東口ハ劉公島及趙北嘴間ノ航路ニシテ日島ニ依リ南北西分セラレ北方水道ハ
南方水道ヨリ稍浅キテ航過ニ便シテ航路ノ最ム水深一八呎ヲ有シ浅吃水船
船ノ航過ニ適ス西口ハ劉公島及北山嘴間ノ航路ニシテ水深ヲ架吃水船舶
ニ用ヒラル港内ノ水深ハ三尋本乃至五尋其大部ヲ占ムル其内劉公島南
方及竹島南東方ニ三尋以下ノ點礁アリ本港ハ出入容易ニシテ中吃水船舶ノ
多数ヲ避泊セシムルニ足ル大型船舶ニ適ス錨地ハ狹隘ナリ

衣實ハ泥若クハ砂泥ニテ錨搔キ良ク趙北嘴及龍廟嘴間ノ海岸日島
周圍並劉公島東端ノ The area 除キテハ險礁ヲ見ズ

(二)英海軍專管水域並港則 (支那東岸水路誌卷七三頁參照)
水路誌附錄 第一卷 九九頁

本港ハ英國支那艦隊ノ夏季作業地トシテ主用スル所ニテ其海軍專管水
域ヲ有シ本水域使用上商船ニ對テ一定ノ制限ヲ規定ス外一般船舶ニ對シテ後
記投錨禁止區域並港則第九條ニ於テ本港若クハ劉公島ヨリ發スル信
號若クハ指示ニ從フヘキトシテ規定ス

(三)錨地

梁吃水ノ船舶ハ黃島及鐵道棧橋間ノ海岸ヨリ南西方ノ深水海面ニ投錨
スルニ冬季ニ於ケル仔錨地ハ鐵道棧橋ノ外端ヨリ二四八度 砵鏈水深三呎ノ
處トシ錨極良ナリ 吃水三七呎以下ノ艦船ハ劉公島ノ南方何レノ處ニ投錨得
英國軍艦ノ常用錨地ハ海圖ニ於テ①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒
其潜水艦錨地ハ⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲等ニシテ劉
公島 Canton Bree ノ南方ハ ㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ノ數示留洋標アリ 英艦
Compliments of and welcome 等懸示物セルヲ見タルトアリ
地方汽船錨地ハ碼頭街沖水深一三乃至一八呎ノ處ニシテ大型商船ハ其吃水ニ應
ジ投錨禁止區域ヲ避ケテ祭祀台ノ南東方海面又ハ mang all cone
沖ニ錨泊ス

註、昭和六年二月、球磨ノ鐵造棧橋ノ三五度六〇米水深三〇呎ノ處ニ碇有
 シ、錨搔、良好ナリキ、又昭和七年四月八日、雲ノ劉公島信號杆、二九三
 度一九〇米水深六五尋ニ錨泊セリ

(四) 投錨禁止區域

總テ、船舶ノ祭祀台立標ト黄島立標トヲ連スル一線、西側一鏈以内及東口若
 シ、西口ノ航路上竹島角燈臺ノ白光分孤内ニ投錨禁止セラル、前者ハ水
 底電線敷設區域ナリ

(五) 潮流

威海衛附近於テ、潮流ハ概シテ海岸ノ方向ニ沿ヒ東ニ向テ流レ、其西流ハ
 劉公島上 *sun-lake* *Rocks* ニ於テ南北ニ流ニ分レ、北支流ハ北岸ニ沿ヒ南
 支流ハ南方ヲ經、西口ヨリ北方ニ出テ、南北ニ流ハ青島及 *Outer Island*
 附近ニ於テ相合シ、渦流ヲ生ズ、此合流ハ更ニ沿岸ヲ西進シテ、出島沖ニ至ル
 間約二節ヲ持テ、距離五哩ニ於テハ流速大ナラズ、東流ハ之ニ反ス
 而シテ西流(東流)ハ高潮(低潮)後約四時ヨリ、低潮(高潮)後約四時迄流ル
 然レ共風ニ支配セラルト甚シク、南東風及東風、強吹時ハ終日西流ヲ
 北西風強吹時ハ終日東流ヲ持テ、スルコトアリ

錨地附近ニ於ル潮流ノ速度ハ約一節ヲ達シ、總流時間ハ通例一乃至
 二時間ナリ、又劉公島南岸至近ノ潮流ハ、錨地附近ニ於ケヨリ著シク早ク

轉流シ流速之鐵造機橋附近ニ於テ大潮時ニ三節ニ達シ西流ハ更ニ強シ
注意、本港内ノ水深ハ冬季特殊ノ場合ニ於テ圖載水深ヨリニ乃至五五

吹テ減ズルトアリ、此現象ハ一般ニ北西方又ハ北方ノ強風後ニ起リ
氣壓ノ増大ニ起因ス、大正四年一月八日ハ偏北風ニ日間強吹後ヨリ
シラ以テ低潮ニ圖載水深ヨリ五五吹テ減ジ次ノ高潮ハ圖載水深
ヨリニ吹テ昇ラサリヤ

(六) 氣象 (支那東岸水路誌第二卷々末氣象表參照)
(一) 風

冬季二月ヨリ三月迄ハ北西信風期ニシテ屢々烈風吹續スルトアリテ秒速ニ六
米ヲ超テ下敢テ珍シカラズ、夏季ハ概シテ偏東風多クモ風力一般ニ強カラズ
其期間モ亦短シ颶風ハ夏季ニ於テ之ヲ見ルモ頻繁ナラズ其風力モ概シテ
本邦ニ於テ見ヨリモ微弱ナリ

(二) 霧

山東半島南岸ト稍其趣ヲ異ニシ所謂裏山東ニ於テハ晚春初夏ノ濃霧
ニ於テ僅カニ其影響ヲ見ルニシテ年中時々霧ノ來襲アルモ多クハ短時間ナリ

(三) 氣温

夏季最高極氣温ハ約三三度八月平均氣温ハ約二五度、冬季最低極氣温
零下約二三度一月ノ平均氣温ハ零下約一六度ニシテ夏季ト雖モ酷暑ナク南

(4) 降水
 東信風ノ齋々涼味及塵々來襲ニ驟雨ニ依リ著ク暑氣ヲ緩和シ
 冬季ハ寒冷尤之凜烈ナラズ空氣清淨乾燥ニ神氣ヲ爽快ナラシム所
 謂三寒四溫ノ現象ハ屢々備南ノ暖風ヲ送り寒冷ヲ忘レシム

(5) 目標 標識
 雨量ノ年平均ハ約七〇毫米ニテ内地瀬戸内海中部又ハ信濃地方ノ如キ驟雨
 地方ノ約五分ニ過ギズ所謂雨期トモ稱スベキハ七八月ニテ其大部分驟
 雨性降雨ナリ冬季ハ最少ク空氣乾燥ニ故ニ降雪亦少シ

水止側
 百尺崖背後ノ「トコヒル」高サ三三三尺ハ北方沖合ヨリ識別容易ナリ、龍廟
 嘴背後ノ「ニ西」山ハ其形狀圓錐形ニテ北東方沖合通視シ得ズ顯著ナリ
 竹島角背後ノ「セイマレン」中「Ko Shan」(クノ山)ハ佛爺嶺上ニ
 遠望顯著ナリ、威海衛西方ノ奈古山(ナゴ)ハ圓錐形ノ著峯ナリ又竹
 島角燈臺ノ南西方金線頂(トコヒル)ハ西口入港時ノ好目標ナリ

コセンエリオンヒルノ信號臺及信號杆ハ遠望顯著ナリ、鉄造棧橋及其外
 端竿柱ハ好個ノ目標ナリ、又鉄造棧橋西方海岸ノ石造煙突(白色)及東方
 海岸ノ鉄造煙突(赤色)ハ何と巨大ニテ顯著ナリ

IV 上陸場

「フィッツゼランドレインゲ」中綿花山 (Dunstan) 及堯牙山 (Dunstan) の附近航行時、好
目標タリ、趙北嘴燈臺及竹島の燈臺 (晝間ノ遠望顯著ナラザルト多シ
劉公島

鐵造棧橋ハ其西側ニ階段アリ上陸地点トシテ至便ナリ又 *Cauteen Steps*
ハ短舟ノ達着ニ適ス
碼頭側

「ウイクトリ」棧橋、碼頭棧橋共汽艇ノ達着可能ナルモ「ウイクトリ」棧
橋附近ハ支那型船密集スルト多シ

五 芝罘港

(一) 港界及港則

芝罘港ハ山東省唯一ノ條約港ニシテ其港域ハ芝罘東角ヨリ燈台島北東端
ハ引ケル一線ト同島東端ヨリ磁針方位正南ハ本陸ニ達スル一線以南トシ其主要
部分ハ玉代山 (Yudai) ト芝罘東角トノ間ニ於ケル水域トス
船舶ニ對スル信號所ハ燈台島燈臺及 *Tanner Point* 燈臺ニアリ、當港ニ
入港ノ船舶ハ港務當局ノ指定錨地ニ就クヲ要シ我艦船ハ入港及錨地ニ関シ
豫メ芝罘日本領事ヲ介シテ港務當局ノ了解ヲ得ルヲ便トス

④ 錨地及投錨禁止區域

外港錨地ハ各種船舶ニ對シ水深充分ナルニテ秋冬四季乗來艦艇ニ備北ノ大強風ニ曝露ス。然レ共錨搔キハ至ル所甚ク良好ニテ走錨ノ虞少レ

(Towers Pt. 1 1/2 north - east of Island) トラ連結スル一線以南ハ海底電線敷設シテ以テ船舶ノ投錨ヲ禁止セシム。船舶ハ通例 Towers Pt. 1 1/2 東方適宜ノ距離若クハ燈塔島ノ南西方ニ投錨ス

而テ夏季ニ於テハ米國並細亞艦隊當港ニ來航訓練ニ從事シ防波堤外ニ密集碇泊ス。球磨ハ昭和六年四月 Towers Pt. 1 1/2 1/4 1/5 度一。米水深五尋泥底ニ又昭和六年七月防波堤北ハ 1/4 1/3 度七七。米水深四五尋泥底ニ錨泊セリ

港内ハ其北半部ニ於テ水深ニ一呎淺深區及ニ五呎淺深區アリ(但防波堤ハ西側ニ五呎區ハ水深一乃至二呎減少シアリト云フ) 南部ハ港首ニ向テ次第淺シ内港錨地ハ防波堤西側浮標ノ外一五ニ區分セラレ第一遣外艦隊馳逐艦ハ本浮標若クハ指定錨地ニ碇泊スルヲ例トス

敬言戒

冬季ノ大強風ハ當港ノ水深ニ影響ヲ及ホスト大ニテ特殊ノ場合ニ圖載水深ヨリ減少スルヲアルノ周知ノ事實ナリ

③ 上陸場

内港開平 (Kainipang) 碼頭ハ敷齊ニ階段ヲ設ケ汽艇及短舟ノ發着所トシ最モ便利ナル一般上陸場ナリ

④ 潮流

潮流ハ沖合ニ於テ強ク漲潮ニ南流シ落潮ニ北流ス港内ニ於テハ微弱ナリ

⑤ 氣象 (支那東岸水路誌卷ニ卷々末氣象表参照)

⑥ 風

冬季ハ偏北西風強ク屢々猛烈ヲ極メ概シテ吹續ス秋冬兩期ノ強風ハ概シテ東北東ニ始リ北ヲ經テ北西ニ旋轉シ北方ヨリ吹ク時最モ猛烈ナリ而シテ此兩季ノ強風ハ時々甚ク高浪ヲ伴フ夏季ハ主トシテ偏南東風流行シ且海陸風比較的顯著ナリ

⑦ 霧

威海衛ト略相似シテ晚春初夏ノ濃霧多ク於テ僅カニ其影響ヲ見ルル外年中時々霧ヲ來襲アルモ多クハ短時間ナリ

⑧ 氣温

夏季最高極氣温ハ約三九度八月ノ平均氣温ハ約二五度冬季最低極氣温ハ零下約二度一月ノ平均氣温ハ零下約一度ニシテ七月八月ノ暑氣強ク是暑サ烈シキ期間ハ比較的短ク南東風ノ齧ラス涼味及屢々來襲

四〇

(四) 降水
 スル驟雨ニ依リ暑氣ヲ緩和シ冬季ハ乾燥シテ冷寒ナルヲ神氣爽快ニシテ
 三寒四温比較的正確ニ至リ寒冷ヲ忘レシム

雨量ノ年平均ハ約六。糶ニシテ降水日数ハ平均約八五日ナリ。七月ハ最モ
 濕潤ニシテ一乃至三月ハ最モ乾燥シ二月ハ殆ンド降水ナク二月及一月ハ多ク降雪
 アリ

(五) 目標 標識

芝罘峯ハ雙嶺ヲ成シ遠望島如ク最モ顯著ナリ。Tanner Hill といハ晝夜
 間ノ入港好目標ナリ。崆峒島ハ及附近ノ島嶼ハ王岱山(188)ト共ニ艦位点
 出ニ利用シ得

六、長山島根拠地

(一) 統記

中國東北海軍第二艦隊ハ廟島海峡ノ北側南長山島錨地ヲ基地トシテ
 渤海遼東海灣方面ニ行動シツアリ。本錨地ハ北東方ヨリ東方ニ至ル風ヲ避ケ
 五尋界線ハ距岸一五。米ニ在リテ陸岸ニ接近スルニ從ヒ激次水深ヲ減ジ障碍
 ナク泥底ニテ錨搔キ良好ナリ

(二) 錨地

球磨ノ昭和五年九月雀咀山(トクマ)燈臺ノ一五八度一八。米水深六尋泥底ニ又昭
 和六年四月同燈臺ノ一七五度一三八。米水深六尋泥底ニ錨泊セリ。中國東北艦隊楚豫
 八船和五年九月三日雀咀山灯台ノ一三八度一四五。米ニ又威海ノ昭和五年四月七日同灯台ノ一五三度一三五米ニ礎
 三氣象ノ泊セリ

冬季一月中旬ヨリ三月中旬迄ハ偏北風強ク寒氣酷烈ニシテ積雪地ヲ没シ時
 ニ雪ヲ交ハタル驟雨ヲ見ルトアリ。四月ヨリ乾燥季ニ入り夏季ハ殆ド降雨ヲ輕
 微ノ變向風流行シテ暑氣甚シカラズ。九月中旬頃ヨリ天候定マラスニテ時々偏
 西ノ強風アリ

四潮流

漲潮流ハ南東方ニ高潮後約五時ヨリ低潮後約五時迄流シ。落潮流ハ北西方
 ニ低潮後約五時ヨリ高潮後約五時迄流シ。錨地附近ニ於テハ其速度一節内外
 ナリ。然レ共潮時ハ極メテ不規則ニシテ一定セズ

五上陸場

上陸棧橋ハ木製ニシテ長サ約一五米、終灣首ニアリ其兩側ノ水深約四呎ニシテ
 「カツタ」内火艇ノ達着可能ナリ

六目標標識

南長山島
 雀咀山(トクマ)ハ顯著ニテ頂上ニ東北海軍ノ設置セシ燈臺アリ白塗ニシテ不
 動白光燈ヲ點ジ光達一。埋ナリト云フ

(四)石堆山(石ヶ山)ハ圓錐形ニテ顯著ナリ

(五)謝家大山(タケノ山)ハ雙頂ニテ南長山島中ノ最高峯ナリ

(六)謝家大山(タケノ山)ノ西方トシテ火山ハ圓錐形ニテ入港時ノ好目標ナリ

北長山島

(七)松山(マツノ山)ハ北長山島中ノ最高峯ニテ圓錐形ヲモ顯著ナリ

廟島

(八)五皇原(ゴウノ原)ハ本島中ノ最高峯ニテ顯著ナリ

小黒山島

(九)本島ノ最高峯トシテ火山ハ圓錐形ヲナス

大黒山島

(一〇)大黒山(オホクロ山)ハ本島中ノ最高峯ニテ島ノ西端ニ在リ峻嶮ニテ顯著ナリ

七.龍口

(一)統記

龍口ハ渤海南東瀆起母島高島ノ南岸東側ニ位スル小港ニテ昭和六年三月調査ニ依テ邦人ノ居住スル者一三名ニテ統人口約二五〇名ナリ

本港ハ渤海南岸於テ主要港ニテ安東大連芝罘天津營口等諸港ト商船往復比較的頻繁ナリ外渤海沿岸各港ト間ニ戒免ノ出入相當多シ

錨地

起母島高向ノ沙頭地ヨリ南東方ニ延ビテ出スル沙嘴及龍口邑ノ南々西方約一海里ヨリ北西方へ延出スル沙嘴トハ相對シテ天然ノ防波堤ヲ成シ其間ニ最小水深八呎ノ可航水道ヲ通シテ本港ヲ内港ト外港トニ分ツ内港ノ水深セ乃至一呎ノ長サ約二哩幅約七鏈底質細沙泥ニテ錨搔々良ク風浪ニ遮蔽セラレテ安全ナリ我艦備驅逐艦ハ冬季結氷甚ク艦ノ操縦困難ナリ時以外ハ内港ニ錨泊スルヲ例トス 外港ハ沖合緩傾斜ヲナシ水深ヲ増シ北ヨリ東ニ經テ南ニ至ル諸風ヲ防カズ北西ヨリ西ヲ經テ南西ニ至ル諸風ニ對シテハ何等ノ遮蔽ナク不安ナリ然レ共冬季西風又ハ西北風ノ流行強吹シ大浪滾入ル場合ニ於テ錨泊危險ニテ避泊ヲ要シ或ハ走錨スルガ如キト殆ンド無シト云フ 昭和三年七月本館ハ起母島ハ一八度二九八哩圖上水深二五呎ニ錨泊シ球磨ハ昭和六年四月及昭和七年六月起母島ハ一八度二九八哩圖上水深二五呎泥底ニ錨泊セリ

氣象

夏季ハ一般ニ凌キ易ク華氏九五度ヲ超テ下締ナリ七月八月ハ雨期ナルモ雨量ハ概シテ少ク春夏秋ノ三季ハ東ヨリ南東ニ至ル風多シ、冬季ハ西ヨリ北西ニ至ル風多ク時ニ強吹スルヲアリ而シテ三寒ノ四温ハ旅順大連方面ニ於ケルガ如ク顯著ナラス 結氷ハ二月下旬ヨリ三月初ニ至ル期間ニシテ二月最モ多ク起母島高向沖ニ於テ附近迄脆弱ナル氷原トナリ霧ハ三四月ヨリ七月八月ニ至ル間ニ於テ稀ニ

見ルトアリ 又朝夕煙霧又ハ霞ヲ見ルトアリ
四潮夕及潮流

潮時ハ大連ヨリ一五分遅ルヲ普通トスレ共風向風力ニ左右ル、ト大ニテ北東強風一晝夜以上ニ亘ルトキハ殆ド潮升ヲ見バ風風キテ後約ニ晝夜ニテ常態ニ復レ之ニ反テ南西強風連吹セハ潮升異状ニ増大ストゾ
外港錨地附近ノ潮流ハ未カ判明セズ且風況ニ支配サルト大ナル、如シ然レ共静穏ノ日ニ於テ概ネ漲潮流ハ南東ニ落潮流ハ北西ニ流レ其流速本乃至五節ヲ檢、レシムトアリ

四目標標識

- (1) 朝山 (A655) ハ登州ノ南方ニ在リ山上ニ顯著ナル高塔アリ
- (2) 朝山ノ西方ニ於テ Dook 岬ハ本山脈ノ西端海岸ニ近ク附近最高峯ヲナス
- (3) Dook Bluff (A600) ハ同項尤モ其北東方約一五哩ノ稍低キ丘ト共ニ馬鞍状ヲナシ識別容易ナリ
- (4) 萊山 (A206) ハ圓錐峯ニテ顯著ナリ其南西方ノ Dook Bluff (A2515) ハ附近ノ最高峯ヲナス Dook Bluff ノ北西方海岸ニ近ク Dook Bluff 岬山アリ峻嶮ナル尖峯ヲナス
- (5) 桑島ハ卑低ニシテ艦位ノ點出ニ便ナラズ
- (6) 起母島高角及同燈臺ハ附近航行時ノ好目標ナリ

(六) 上陸場

(1) 龍口港沖に於て先づ龍口邑南側海濱ノ指導標ヲ認メ港口ニ接近
シテ漸ク三個ノ圓柱浮標ヲ認メ得

海関岩壁ニ石段ヲ設ケ舟艇ノ達着ニ供ス然レ共附近水深淺ク低潮時
ニ距岸約三〇米以内ハ通航若クハ浮舟ヲ使用スルヲ要ス

八小清河、大清河、大口河

一總記

渤海南西岸ハ未ダ精測海圖ナク而シテ一帯ニ遠淺ニシテ特ニ河口附近ハ距岸數
哩ノ沖迄淺堆積延シ且海底不規則ニシテ所々尚未知ノ點堆無キヲ保シ難ク
加ニ陸岸甚カク卑低ニシテ殆ンド艦位ノ測定ニ資スルベキ目標ナク僅クニ河口
近ニ群集スル民船並魚柵等ニ頼ル外ニ状態ナリ之ヲ要スルニ常沿岸航
行ニ際シテハ常ニ間断ナキ測深ト周到ナル應急處置ノ用意必要トス
以下主要ナル河川ニ就キ其概要ヲ摘記セントス

(1) 小清河
錨地

球磨型ノ河口立標ノ三三度三三度水深五尋泥底附近ヲ適當トスベシ附近
潮升約四呎ナルカ如シ昭和六年八月芙蓉谷ノ河口北側立標ノ北四七度

東四五。米水帯て天泥底ニ錨泊セリ

(2) 門洲

門洲水深ハ高潮時ニ於テ六呎ヨリ深キヤト稀ナリ、河口ハ立標ヲ置キテ明示シ
視界良好ノ際ハ一〇〇〇米以上ヨリ認メ得ベト云フ

(3) 水路

河口ヨリ上流一五哩ニアル羊角溝迄ハ水深四乃至一ニ呎ニシテ羊角溝南側ハ
運河ニ依リ連絡ス、本運河ハ各季氷結ス

大清河(利津河又ハ黄河前)

(1) 錨地

球磨型ハ河口立標ノ二八度約一三五哩水深五尋泥底附近ヲ適當トス

(2) 門洲

現今河口水深ハ一乃至三米ヲ有スルニ過キカルガ如ク從來湖航ヒシ海洋大型
戎克モ現今河口ヨリ湖航スル能ハズ河口外一哩ノ地急ニ碇泊シ小舟ヲ積荷
河内ニ運スト云フ

(3) 水路

河口上流約一七哩ナル塩窩及河口上流約一七二哩ナル樂口間ハ河幅四〇乃至一
〇〇米水深四乃至九米ヲ有シ流速共ニ航行安全ニシテ比較的大型民船運
行ニ堪ユ共塩窩以下河口ノ海洋連絡不便ナル爲上流ヨリ下航シ來物質

九 天津港 (白河)

ハ樂口ニ陸揚セラレ濟南ヨリ同地迄延長セル鐵道支線並濟南、洋角、青
 間、運河ヲ介シテ小清河ヲ經テ渤海ニ出ル状態ニシテ本區間並其下流
 ハ舟運萎靡トシテ振ハズ民船ノ上下ハ樂口以上ノ約一ノ三ニ達セバ
 樂口ハ濟南北北四理ニ位レ其河港ニテ黃河全河域中最大主要ノ港ナリ
 大口河(大三河)

(1) 錨地

球磨型ハ河口東向ニアル低島灯標ノ五〇度約一〇五理五尋底質沙泥所
 ヲ適當トスベシ 附近ノ大潮升一〇五呎小潮升八呎九カ如シ

(2) 閘洲

昭和六年八月川堂報ニ依ル閘洲ハ低潮時水深約二呎ナリ

(3) 水路

水道ハ閘洲ヨリ南走シ約一五理ニシテ河口ニ達ス支那型船夫ノ言ニ依ル河ヲ
 溯ルトテ五理ニシテ萃集見ト稱スル小市アリ更ニ溯ルトテ三〇理ニテ海豐市
 アリ此等ノ地ニ於テスル規模ノ貿易行ハ 當河口ニ經驗見幡陽丸(天
 沽煙子)間定期船一五〇噸(船長談ニ依ル大口河河口上流約二〇理ニ
 煙子)アリ幡陽丸ハ此地迄逆航スト

白河

河ロヨリ上流約三四哩天津迄ハ航洋汽船ヲ上下シ天津以上ハ民船ヲ通ジ北平、東方約一三哩通州ニ達ス白河ハ天津及河口太沽間於テハ之ヲ海河トモ謂ヒ其水量ハ一年間ヲ通ジ著シキ変化アリ夏季七八九月ノ三箇月ハ時ニ猛烈ナル降雨アリ上流ノ各流ハ忽チ増水沁溢シテ廣大ナル流域各地ニ非常ナル損害ヲ與フルトアリ又河水ハ流勢猛烈ヲ極メ途中多量ノ泥土ヲ洗ヒ平地ニ至レハ次第ニ之ヲ沈澱シ遂ニ其河床ヲ著シク高メ其結果屢々河道ヲ変遷セリ

秋季各流ノ水量ハ急速ニ減少シ冬季ニ至リ更ニ少シ爾來一三二月、三箇月間結氷ス三月ニ至レハ解氷始マリ雪解ト共ニ各流ハ再ヒ増水シ始ム

天津迄汽船ノ出入ヲ見ルニ至リレハ今ヨリ五、餘年前^以カ其後逐年改善セテ現今ニ於テハ約一朝時ヲ利用シ僅々四時間内外ニテ河口ヨリ天津ニ達スルヲ得ルニ至レリ

一八九七年天津駐在各國領事團ノ合同企業トシテ海河工程局ヲ組織セシメテ該局ハ天津以下ノ白河即海河ヲ改修シ天津至ル運航状態ヲ増進セシムルヲ目的トセルモノニシテ諸種ノ測量ヲ實施シ先ツ四箇所ヲ掘割ヲ掘鑿シテ多クノ曲路ヲ短縮シ其結果潮汐ノ河内及ホス狀況モ大ニ有利トナレリ

以上四箇所開通ノ結果河口ヨリ天津至ル全長ハ以前ノ約五哩ヨリ三五哩ニ

短縮セラレタリ、更ニ九三三年新ニ第二堀割ノ位置ヲテ所謂 Tunko's Bend Cutting ヲ開鑿シ全長ニ於テ更ニ埋ヲ減ジタリ、尚近來河口外門洲水道ヲ浚深シ白河自體ノ改善ト相俟ツテ該水道ハ大ニ増深セラレタリ、然レ共大洪水時ニハ依然トシ大沈泥ノ堆積ヲ逸レズ現在ノ門洲水道ハ元一七年ノ大洪水以後新ニ開通セルモノナルガ其後海河工程局ニ於テハ河口ヨリ三四度ノ方位ニ一恒久水道計畫セラレ該水道ハ潮汐ノ及ボス影御音ヲ最モ良好ナラレルガ如ク設計セラレタルモノニテ曰下工事中ナリ

往時白河ハ結氷ノ故ヲ以テ一二月カラ三月迄航行ヲ杜絶セリ、然レ共今日於テハ前記改修ノ作業ノ顯著ノ成果ト碎氷作業ニ依リ一二月及三月ト雖モ天津道ノ開通困難ナラス、尚現ニ工事中ノ水道完成上ハ普通ノ冬季ハ最モ冬一二月ト雖モ開通困難ナラザルベト云フ、但シ特別ノ場合トシテ東風吹キ暮リ多量ノ漂氷ヲ渤海ノ西部ニ追ヒ込ミ一時河口外門洲外側ノ錨地ニ於テ船舶進ムヲ妨グルガ如キコトアルモ近年カルフトハ稀ナリ

天津港

天津港北支那重要ナル條約港ナルモ其市街地所在、錨地狹隘ニシテ水深大ナラズ加フルニ途中白河内及河口外門洲ノ水深ノ狀況如何依リ天津錨地迄達シ得ル船舶ニ制限アリ大型船舶ハ門洲外側若クハ河以内大沽塘若クハ碇泊トテ荷役ヲ行フモノアリ 從テ天津港港域ハ天津日本租界埠頭

川港則並錨地

下閩洲外側即手閩洲、二界線東方三哩至北迄トセリ
以下大沽泊地並當港、概要ニ就キ記述ス、直接上流ノ航行及行船ニ際シテハ
更ニ支那東岸水路誌第三卷並水路誌附録第一卷港則ヲ參照ス
外最近經驗者ニ就キ水路狀況ヲ究ムルヲ要ス

港則一般並航行規程(閩洲水道航行規程) D. 1910 天津間航行規程
閩洲及海河冬季航行心得)等ハ水路誌附録第一卷ヲ參照スベシ
錨地區分ヲ左ノ通り定ムル(摘要)

④河口外閩洲、外側

⑤河口北南ヨリ塘沽ニ於ケル招商局埠頭ノ上端ニ至ル間

⑥第一掘割ノ上方約一哩ニ自耳義租界ヨリ果租界埠頭ニ至ル間

右記河口外閩洲、外側錨地ハ之ヲ大沽錨地ト稱シ檢疫ヲ受クベキ船舶潮航
前潮待スル船舶吃水大ニシテ閩洲ヲ通航シ能ハサル船舶冲荷役ヲナサントス

船舶爆發物搭載船舶等、錨泊所トス

本錨地ニ投錨スル船舶ハ閩洲入口桂燈浮標ト大沽燈船トノ一線上若ク

ハ之ニ近ク而燈ヲ見通シテ傍ルガ如キ位置ヲ避ケ此一線以北ニ於テ其吃

水ニ應ジテ錨泊スルヲ可トス、大沽燈船以東四乃至五尋ノ錨地ヲ一般船

船ノ泊地トスルハ燈船ヨリ東方一哩以内ノ概シテ七乃至八尋ニテ底質軟泥

航行

(2) 目標並大沽泊地ニ至ル針路法
 大沽泊地ニ至ル唯一好目標ハ大沽燈船ニテ又泊地ニ近接セバ比較的遠距離ヨリ大型船舶ノ碇泊スルヲ視認シ得一般船舶ハ先沙壘田島燈標ニ依リ船位ヲ定メ大沽燈船ニ向首スルヲ可トス

錨碇ノ良好ナリ、而シテ本泊地ハ風浪ニ對テ遮蔽絶無ニテ強風至レバ忽チ厭フベキ波浪ヲ起シ且冬季流水凡時ハ錨鎖ヲ如何ニ延長スルモ船体ハ流水ト共ニ移動シ之ヲ無理ニ防止セントセバ錨鎖ヲ切断スルアリ

(3) 水深
 天津以下河内及河口外間洲水道ノ水深ハ改修作業進捗セ現令ト雖モ尚沈泥ニ因ル全般的变化多ク殊ニ天津以下河ノ半途ニ至ル間ニ於テ甚シク毎年春季ニ首領ノ雪解並夏季ノ降雨後ニ於テハ時ニ水深ヲ減ズ加フルニ各地ノ水深ハ常時潮汐ノ影響ヲ受ケテ刻々变化スルヲ以テ當港出入ニ際シ豫メ最近ノ狀況ヲ精査スルヲ緊要ナリ、近年河口ヨリ天津至ル可航船舶ノ吃水ハ約九乃至八呎ノ間ニ在リテ水深減少季ニ於テハ天津迄通航スル一般船舶モ塘沽ヲ荷役スルノ止ムテ下リ、而シテ船舶ノ可航吃水ハ時々告示ヲ以テ發表セラレ間洲水道ニ於テ刻々ノ實際水深ハ間洲燈船及大沽信號所ニ於テ表示ス

天津以下河内及河口外間洲水道ノ水深ハ改修作業進捗セ現令ト雖モ尚沈泥ニ因ル全般的变化多ク殊ニ天津以下河ノ半途ニ至ル間ニ於テ甚シク毎年春季ニ首領ノ雪解並夏季ノ降雨後ニ於テハ時ニ水深ヲ減ズ加フルニ各地ノ水深ハ常時潮汐ノ影響ヲ受ケテ刻々变化スルヲ以テ當港出入ニ際シ豫メ最近ノ狀況ヲ精査スルヲ緊要ナリ、近年河口ヨリ天津至ル可航船舶ノ吃水ハ約九乃至八呎ノ間ニ在リテ水深減少季ニ於テハ天津迄通航スル一般船舶モ塘沽ヲ荷役スルノ止ムテ下リ、而シテ船舶ノ可航吃水ハ時々告示ヲ以テ發表セラレ間洲水道ニ於テ刻々ノ實際水深ハ間洲燈船及大沽信號所ニ於テ表示ス

天津迄遼航セントル船舶ハ高潮時若クハ少シク前ニ閘洲ヲ通過シ漲潮ニ
乗ジテ直航スベシ何トシバ天津ニ於ケル高潮ハ閘洲上ヨリ約三五乃至四時間
遅ク此時間ハ汽船ガ遼航ニ要スル時間ニ略等シク總流時若クハ微
弱ト漲潮流ニテ回頭シ得ルナリ

又一般ニ下航ノ船舶ハ畧天津ノ高潮時若クハ其少シ以前ニ天津ヲ發シ河
ノ最淺部 (up per reaches) ヲ充分ナル水深ヲ有スル間ニ通過シ落潮
流ニ乗ジテ下航シ閘洲内側ニ錨泊シテ次ノ高潮ヲ待ケ閘洲ヲ航過スベシ

(5) 水先

自由水先制度ナルニ天津以下ノ水深ハ既記ノ如ク全般的ノ変化極リナキミナラズ
日々甚ク不規則ナルヲ以テ水先人ヲ雇傭セントラ推將大ニ殊ニ冬季閘洲水
道ヲ水先人ナシニ航過スルハ危険ナリ水先船ハ常ニ大汽燈船ノ東北東方約
一五哩ニ出張候數ヲシテ冬季燈船撤去中ハ水先人ハ碎氷船内ニテリ故ニ入港
船舶ハ現場ニ於テ濃霧ナリ水先人ヲ雇傭シ得ルニ我艦船ハ豫メ天津駐在
總領事若クハ塘沽陸軍運輸支部長ニ豫報依頼スヲ便利ナリトス
尚河口水先人詰所ニ無線ニテ直接申込ムコトヲ得

(6) 潮汐及潮流

白河ニ於テ潮汐ハ天津以上セ乃至五哩ノ地點迄感スト云フ 毎年八月洪水

時迄天津於其著多強張潮流ヲ感ズ

白河ニ及ボス潮流状況ハ風候ニ依リ日々甚カ不規則ナリト雖モ洪水期ヲ除キ而モ風ガ強カラザル普通ノ場合ニ於テハ河口外閘洲河口及天津ニ於テハ潮時及潮高ハ潮汐表ニ依リ其大體ヲ知ルヲ得ベシ

概シテ閘洲高潮後一五時間ヲ塘沽ノ高潮トナリ三五時間乃至四時間ニテ天津ノ高潮トナリ其潮高ハ各地刻々水深ヲ左右シ閘洲ニ於テハ大潮弁八呎

小潮弁五呎、河口ニ於テハ大潮弁八三呎小潮弁五三呎天津ニ於テハ大潮弁五呎小潮弁二五呎ナリ、而シテ一般ニ高潮前約一時間ヨリ以後潮高ニ付テ増スニ要ス

時間ハ大畧大潮時ニ一乃至五分小潮時ニ五分乃至二分ノ分ヲ要シ北乃至西風ニ延

長シ東乃至南東ノ風ニ短縮ス

各地於テハ潮流概畧次ノ如シ

閘洲外鎔地 漲潮(下+い)流(下+い)約四分節

閘洲 漲潮(下+い)流(下+い)約四分節

河口附近 漲潮(下+い)流(下+い)約四分節

河口一天津 漲潮(下+い)流(下+い)約四分節

天津 漲潮(下+い)流(下+い)約四分節

然レ其風向風力、潮汐ニ及ボス影響自ハ大三北乃至北西ノ風吹ク時ハ漲潮流ヲ阻止シ潮高ヲ減ジ其強風ノ際ハ毫モ水面ノ升降ナク河水ハ常

四七

ニ流下ス之ニ及シ東乃至南東ノ風吹ク時ハ漲潮流ヲ助ケ落潮流ヲ阻止シ潮高ヲ増ス

(7) 氣象 (支那東岸水路誌第二卷々々末氣象表参照)

一般ニ夏季ハ南東風冬季ハ北西風流行シ風力ハ概シテ強カラズ春秋
雨季ハ風向不定ニシテ屢々強吹ス暴風ハ主トシテ北東風若クハ東風ニ
シテ夏季ニ稀ニ突風ヲ見ルコトアリ、春季北西風強吹ル時ハ河内ニ於
テハ所謂黃塵萬丈トナリ咫尺ヲ辨ゼザルコトアリ一日中ニ於テハ風向風力
ノ變轉甚ク特ニ午後ニ於テ然リ

氣候ハ概シテ大陸的ニシテ夏季ハ酷暑冬季ハ酷暑ヲ極ム最モ寒冷
尤ハ一月ニテ最モ暑氣強キハ七月ナリ、盛夏七八月ハ雨期ニシテ概シテ濕潤尤
モ他ノ三期ハ悉ク乾燥季ト稱スヲ得可ク冬季ハ特ニ著シ

(8) 結氷及碎氷

現今ハ冬季ヲ通ジ天津迄航行ヲ杜絶セズト殆ンドナラ海河工程局ハ天
津港ヲ人工的不凍港トシテ企圖ヲ以テ努力シ著々成功ヲ收メツコトアリ
碎氷船ハ現今四〇噸ノモノ三隻ヲ使用シ天津以下ノ河内及河口外間洲
外側ノ錨地ニ至ル迄ヲ三區ニ分テ各區一隻ヲ以テ日々約二回碎氷シ落潮ヲ
利用シ之ヲ海上ニ搬出ス

可秦皇島及附近

(一) 總記

秦皇島の條約港ニテ渤海連東海灣ニ於テ唯一ノ不凍港ナリ。主トテ開港
炭ノ輸出港ニテ亦天津ノ冬季港ヲテモ開港廢務局ハ當初其ノ採掘セル石
炭ヲ塘沽ヨリ積出セシガ其需要ノ増加スルニ從ヒ塘沽ノ水深淺ノ大量輸出
不可能ナリ。鑑ミ他ニ良港ニ選擇ノ結果秦皇島ニ着眼シ築港ニ至シテ
ニテ埠頭其他大規模ノ港灣設備ヲ施シ京奉線ヲ此地ニ通ジ其結果
北支那交通路ノ要衝トナリ近來ハ石炭ノ外諸雜貨ノ積卸モ行ハレ且條
約港トナレリ

各國ノ大型船舶ニテ白河湖航不可能ナルモ人當為地ニ來リ荷揚スルモ多ク
又冬季結氷ノ狀況白河天津ヨリ有利ナルヲ以テ小型船舶ト雖モ當地ヲ利
用スルモノアリ

當地ハ人口支那人約二萬日本人二五(守備隊ヲ除ク)改米人九八(昭和三年七月)
(二) 港則並錫地

當港ハ開港廢務局埠頭使用ニ關スル港則ヲ有シ一般船舶大埠頭若ハ
小埠頭ニ數カ留セ下ル時ハ總テ廢務局埠頭長ノ指圖ニ從テ要ス大埠
頭(防波堤)數カ留場ノ常ニ石炭船及一般商船ニ用ヒラル軍艦ハ概シ小埠
頭(棧橋)繫船場ヲ用ヒシ鐵艦船ハ殆ンド之ヲ使用セス埠頭ノ南方及

西方、外方、地ニ錨泊ス

外方、地中、埠頭、西方ハ比較的、水深、浅ク、南方ハ稍深シ、當地、干、差、ハ、約、五、呎、ニ、テ、冬、季、ノ、水深、ニ、乃、至、三、呎、ヲ、減、少、ス、ト、云、フ、我、艦、船、ハ、日、本、兵、營、ヲ、通、視、シ、得、ル、大、埠、頭、ノ、南、西、方、及、西、方、海、面、ニ、於、テ、埠、頭、出、入、航、路、ヲ、避、ケ、テ、水深、適、當、ノ、箇、所、ニ、錨、泊、ス、附、近、ノ、底、質、ハ、主、ト、シ、テ、薄、キ、泥、層、及、石、炭、ノ、粉、滓、ニ、被、シ、ル、岩、盤、ヨ、リ、成、ル

球磨、昭、和、六、年、二、月、大、埠、頭、西、端、ハ、ハ、ノ、ニ、三、五、度、八、。米、水深、五、尋、泥、ニ、

昭、和、六、年、二、月、今、ハ、ハ、ノ、一、九、九、度、一、五、。米、水深、五、尋、泥、ニ、又、昭、和、七、年、二、月、今、ハ、ハ、ノ、一、六、。度、八、。米、水深、五、尋、泥、ニ、錨、泊、セ、リ

警戒

昭、和、七、年、二、月、下、旬、第、一、三、航、隊、隊、長、泰、望、島、燈、臺、ノ、南、四、度、東、七、五、理、ニ、錨、泊、中、流、氷、ノ、為、走、錨、セ、リ、當、時、流、氷、ハ、距、岸、約、二、理、ニ、及、ビ、陸、岸、ニ、接、近、ス、ル、從、ヒ、漸、次、其、厚、サ、ヲ、増、シ、距、岸、五、理、附、近、ニ、於、テ、ハ、厚、サ、二、吋、位、ノ、氷、片、堆、積、シ、潮、流、ニ、從、ヒ、テ、陸、岸、ニ、平、行、シ、静、カ、ニ、移、動、シ、シ、リ、タ、リ、風、向、北、風、ガ、ニ、乃、至、三、米、ニ、シ、テ、氣、温、零、下、六、度、海、水、温、度、零、下、五、度、内、外、ナ、リ、キ

氣象

冬、季、ハ、寒、氣、凜、烈、ニ、シ、テ、空、氣、乾、燥、シ、降、雨、稀、ニ、シ、テ、強、烈、尤、偏、北、風、流、行、ス、夏、季、ハ、南、風、多、ク、春、秋、二、季、ハ、風、向、亂、カ、共、ニ、不、規、則、ニ、シ、テ、海、上、比、較、的、

穩カラズ四季ヲ通シテ降雨稀ナリ

氣候ハ大陸的ニシテ氣温、變化著ク八月四八九度ニ昇リ若熱ヲ感ズルト
稀ナズ、然レ共八月ノ平均氣温ハ約ニ四度ニシテ渤海ノ海風避暑ニ
適シ毎年北平天津上海漢口方面ヨリ外人避暑客多ク海岸ニ礦務
局ノ經營ニテ印度式平家ノ代別荘アリ、冬季ハ零下ニ七度ニ降ルト
アリ、然レ共稍規則的ニ三寒四温ヲ繰リ返シ温暖ナル天アリ、當者地
ニ於テ最モ恐ルベキハ北東乃至東ノ風ニシテ突然襲來スルトアリ
但シ半日以上吹キ續クト稀ナリ

(四) 結氷

當泊地ニ於テ結氷スルハ冬季無風、約一週間打續キ後ニ起リ其厚サ
丈乃至八吋ニシテ距濱約一哩ニ互リ一月下旬乃至二月初旬ニ多クシ而シテ日以
上結氷ニ鎖サルト稀ニシテ冬季流行スル偏北風ニ依リ速ニ掃サルヲ
常トス、然レ共結氷季船泊ニ關シテ人既記ノ如ク走船ニ對テ注意ヲ要ス

(五) 潮汐及潮流

當泊地ノ潮升ハ甚シク風ニ左右セラレ東風ニ海面昇リ西風ニ降リ又時ニ
數日間海面ノ昇降ヲ見ガルトアリ
秦皇島圓崖南ノ南方ニ於ケル潮流ハ漲潮流ハ西南西方ニ落潮流ハ
東北東方ニ流レ流速亦乃至五節ナリ

(2) 目標標識

Thummi Peak (44270) の西方山脈中、最高峰ナリ、山海関北背後、
 984 呎山、距岸約一哩ニ梅志仔目標トナリ、Mt. Finest (1800) ハ
 峻峻ナ双頂峯ヲナシ其北側、Speed Peak 亦顯著ナリ
 海岸附近ニ於テハ晝間硝子工場ノ大煙突ハ良好ナ入港目標トナリ西方金
 山嘴、達峯山、圓錐峯等亦比較的顯著ナリ、埠頭側ニ於ケル
 西突堤端、燈標、茶皇島燈臺及入港指導標ハ左程明瞭ナズ
 夜間ハ沖合ヨリ西埠頭上ニ並列セル強カク電燈群ヲ明視シ得、茶皇島
 燈臺ハ此等、燈光ヨリ稍高ク光力強シ更ニ近接シテ西埠頭端ノ紅綠両
 燈ヲ認メ得ベシ

(3) 上陸所

上陸棧橋ハ西埠頭ノ中間奥方ニアリ汽艇ノ達着可能ナル附近淺所アリ
 低潮時ニ注意ヲ要ス

(4) 山海関(寧海)附近錨地

山海関沖ニ於テハ寧海ノ南東方水深適當箇所ニ錨泊ス、水底地ハ北
 東ヨリ南ヲ經テ西ニ至ル間礫露ルル底質硬泥ニテ錨搔キ良好ナリ
 海濱ハ底質砂ニテニ尋ヨリ浅キ所ハ岩底ナリ、附近潮流ハ極々微弱
 ニテ船ハ風向ニ立ツテ常トス

昭和六年二月三日至七年一月四日間、球磨の長城起端の二度三埋
水深五尋泥底に錨泊セリ

(1) 上陸所

附近上陸設備ナキ長城起端至近の南西方海岸及海水浴場附近の
嶺へ短艇を達着可能ナリ、兩者の間は暗岩アリ以テ注意ヲ要ス、冬
季結氷期間ハ風向ニ依リ附近流水集積シテ舟艇ノ航行殆ド不可
能ナリトアリ

(2) 氣象並結氷

概ネ泰皇島ニ準ズ

二 葫蘆島

(一) 総記

葫蘆島高約ハ海岸線ヨリニ五型東方ニ斗出セル半島ニテ、北ハ其南
側ニアリ、半島ノ畧中央ヲ東西ニ走ル山丘ハ能ク偏北ノ諸風ヲ防キ、
泊安全ナルモ其他ノ諸風ニ曝露シ殊ニ夏季偏南風ノ流行ス際ハ
長濤灣内ニ滾入スト云フ、中國政府ハ夙ニ本港築港計畫ヲ有
セシガ一九三〇年和蘭築港会社ト間ニ五箇年ヲ以テ完成スベキ大々的
築港計畫ヲ契約シ同年七月其工事着手シ現在其ニ五割ヲ終ル

タルモ藩州事変以來中止状態ニアリ

(二) 錨地

球磨ハ昭和五年十月豊家後山(トシマ)ノ一九六五度ニ三。米水深六尋泥底ニ錨泊セシカ錨搔良好ニシテ北々西ニ三米風ニ對シテ錨位ニ異状ヲ認メザリキ又昭和七年二月全山ノ一七ニ度ニ六。米水深五尋泥底ニ錨泊シ錨搔良好ナリキ、本錨地附近ハ水深底質共ニ適良ニシテ偏北風時ニ安全ニ避泊地トシテ潮流比較的強ク二節内外ニ達シ且結氷季ニ於テハ風潮一致セザルヲ多ク爲ニ流水ニ依リ驅逐艦ノ走錨セシトアリ
注意ヲ要ス

(註)

今回幾ニ依リ燈籠山ノ約一六四度一四五度ニ五、四米浅堆ヲ又全山ノ約五九度ニ三、二米浅堆ヲ發見セラレタリ

(三) 氣象

秦皇島山海関及塔口ノ氣象並當地若干ノ経験ニ徴スルニ冬季ハ寒氣酷烈ニシテ偏北ノ強風多ク空氣乾燥ニテ最低氣温零下二五度内外トナルニ寒回温稍確實ニシテ偏南ノ微風至リ温暖ナルトアリ
菊花島以北距岸。埋内外ノ沿岸ハ結氷季流水ヲ見ユト多クシ
夏季ハ南風多ク於涼ニシテ七八月ノ兩期ハ概シテ多雨ナリ、春秋ニ季ハ風向風力不規則ニシテ時ニ突風降雨ヲ伴ヒテ吹來スルトアルガ如シ

(四) 潮流

釜地附近於テハ畧高低潮時ニ變流シ漲潮流ハ北東方ニ落潮流ハ南西方ニ流レ流速最強ニ節内外ナリ平均潮差ハ約二呎ニテ夏季ニ於テ最
高潮ト冬季ニ於テ最低潮トハ差ハ一七呎ナリト云フ

(五) 目標標識

燈籠山 (D/22) 獅子頭 (D/23) D/03 葦家後山 (D/21) 馬鞍山 (D/24)
D/25 鍋頂山 (D/26)

三營口 (遼河)

(一) 遼河

遼河ハ門洲外方牛莊燈船ヨリ上流約一五哩尤營口及其上流ニ乃至三哩迄ハ航洋汽船ヲ通ジ可ナリ大型戎克ハ營口上流約二六哩尤田庄ヨリ到ルトヲ得田庄合ノ上流約三哩ノ處ヨリ上流ハ河幅漸ク狭ク且曲折シ諸箇ハ概ネ淺瀬拓延シテ可航水路ヲ狭ク河用艦船ト雖モ操縱危險ナリ故ニ中型以上ノ船泊入止ヲ得ル場合外潮航セズ殆ド支那型船ニテリ
明治三七年八月及九月軍艦宇治及筑紫ハ河口ヨリ約六哩ノ三叉河(本流ニ瑯河太子河ノ二支流相合スル地点)ヲ經テ更ニ太子河ノ上流約三五哩ノ處迄潮航セリ

遼河水運ノ區域ハ現在其通航スル船ノ大小種類ニ從ツテ之ヲ二區ニ大別ス即ケ河口ヨリ鉄嶺ヲ經テ鄭家屯ニ至ル約三。遼河下流區トシ鄭家屯ヨリ通遼ニ至ル約三。遼河上流區トス然レ共上流區ハ水深甚カ浅ク特種ノ舟舟ヲ通ズルニ過キズ

遼河ハ凡ソ二月ヨリ三月迄結氷元ヲ常トシ其開閉ハ氣候ノ寒暖ニヨリ多少ノ遲速アルモ概ネ二月末三月始メニ終航シ三月半ヨリ末迄ノ間ニ初航ス

本河ノ増水期ハ七八兩月ノ雨期ヲ最高トシ解氷後ノ三四兩月之ニ次キ最モ減水スルハ秋季トス然シテ河口附近ニ於テ増減ノ差ハ約八呎ナリト云フ

遼河ノ改修ハ遼河工程局ノ所掌ニテ該局ハ一九一四年七月設立セラレ本部ヲ營口ニ置キ營口ノ上流約大連ニ鴨島ヨリ鄭家屯ニ至ル上流ハ日本人技師長ノ下ニ鴨島ヨリ下流ハ英人技師長ノ下ニ夫々改修作業ヲナシツアリ

營口

(航說)

營口ハ遼河ノ外牛莊鐵道船ヨリ上流約一九哩左岸ノ條約港ニシテ遼河水運ノ要門ナリ

鐵道本線ハ溝帮子ヨリ五六六哩ノ支線ヲ以テ對岸ノ河北驛ニ通ズ以下

營口下流ノ遼河ニ就キ其概要ヲ記述ス。直接通航ニ際シテハ更ニ支那

東岸水路誌第一卷並水路誌附錄第一卷卷則ヲ參照ス外最近經

驗者ニ就キ水路ノ狀況ヲ知悉スルヲ要ス

(2) 河口外錨地

河口附近ニ於テハ牛莊燈船ノ外何等ノ目標ナク該燈光ハ晴天ノ夜ニ九哩ヨリ其光芒ヲ認メラルト云フ尚多クノ船舶ハ河口到達ヲ高潮時ニ選ム故ニ同時刻ニ燈船附近船舶輻輳シ燈船ハ此等碇泊船ニ隠レテ見得ズトアリ船舶河口外ニ達セバ牛莊燈船附近ニ於テ便宜投錨スル得水深ハ東方ヘ漸減ス

(3) 水先人
Yamasa / Hill ヲ四五度九哩ニ望ム所ニ水深ニ八呎ノ点堆アリ
驅逐艦ハ燈船ノ北東方一〇〇米附近ヲ適當スト云フ本燈船ノ西南西方約九哩ニ於テYamasa / Hill Δハムノヲ四五度九哩ニ望ム所ニ水深ニ四呎ノ点堆アリ又ヨリ更ニ東方ニ水深ニ七呎ノ点堆アリ又燈船ノ南方約五哩ノ處ニ於テYamasa / Hill ヲ四五度九哩ニ望ム所ニ水深ニ八呎ノ点堆アリ

(4) 水深
自由水先制ナルモ河口内外水深ハ変化シ易ク且潮流急激ナリ故ニ當地ニ不馴レ者ハ水先人ヲ僱聘スルヲ可トシ我艦船碇泊口出入ノ際ハ豫メ碇泊口領事ニ依頼シ雇傭スルヲ例トス水深先船ハ牛莊燈船及入口浮標間南東方ニ寄リタル處ニ碇泊ス碇泊口碇地ハ港長ノ碇地指定ニ依リ碇泊ス要シ我艦船ハ通常碇地第一若シハ第二埠頭ヲ貸與セシ之ニ碇泊ス

毎年六月乃至二月ニ於ケル間洲水道ノ平均水深ハ大潮時ノ高潮ニ約八呎ノ潮時ノ高潮約一丈呎ニテ低潮水深ハ九五呎ナリ而テ南風ハ閩洲上ノ水

五二

面ヲ高ク北風ノ起リテ低トス

營口ノ水深ハ現今低潮ニ約二尺ヲ有シ一萬噸級ノ大型船舶ヲ入ルニ充分ナドモ閩洲水道ノ水深ニ制限セラレ該水道ヲ通航シ得ル船舶ハ總テ何等ノ危険ナリ營口ニ至ルヲ得而シテ現今ニ於テハ吃水一九乃至二〇呎ノ船舶完全ニ高潮時閩洲水道ヲ通過シテ營口ニ到ルヲ得ト云フ、閩洲信號所ハ河口東南ノ北方約二哩河ノ東岸ニアリ

(4) 航行(溯航及下航)

入港船舶ハ閩洲高潮時前約一乃至二時間ニ牛莊燈船附近ニ到着シ水先人ノ乗船ヲ待テ概テ閩洲高潮ノ少シク前ヨリ微弱ナル順流ニ依リ溯航スルヲ可トス之閩洲燈船ヨリ營口鎊地迄約二時間ヲ要シ鎊地ニ於テ又弱ク漲潮流ヲ受テ出船ニ回頭スルコトヲ得

下航時期ハ概テ高潮時ニ閩洲ヲ通過スル如ク定ムル可ナルヲ驅逐艦ノ如ク吃水ニ餘裕アルモノハ略閩洲高潮時營口ヲ發シ途中憩流ニ會ヒテ下航スルモ可ナリ

河口附近ノ航路標識中夜標ノ設備充分ナラズ閩洲信號ト雖モ夜間信號ノ設備ナシ故ニ充分自信アルニ非ハレバ夜間ノ出入危険ナリ

(6) 潮汐及潮流

潮升ハ風ノ影響ヲ受クテト大ニシテ就中山潮時ニ甚シ即チ偏北風強吹スル

時ハ水深ヲ減ジ偏南風強吹ル時ハ増加シ乃至三呎ノ差ハ普通ニテ激シク北東風強吹後閩洲上ニ潮升キコトアリ、數日後ニ至其反動ニテ非常ナル潮升ヲ見ルニマリト云フ、閩洲上ノ大潮升ハ三五米小潮升ハ二三米ニテ營口ニ於テハ大潮升ニ七米ナリ、即テ營口ノ潮時ハ閩洲ニ於ケルヨリ約一時間遅シ、漲潮流ハ一般ニ水面が一乃至二呎上昇シ後始コリ落潮流ハ一乃至二呎降下シタル時何レモ表面流ニヨリ始ル

潮流ヲ表示スル概ネ次ノ如シ

閩洲外方

潮潮流ハ一般ニ北方ニ流レ北ヲ經テ北々東方ニ終リ流速約五節

閩洲附近

漲潮流ハ約三節

河口附近

漲潮流ハ約三節

營口附近

漲潮流ハ約三節

(1) 氣象(支那東岸水路誌第一卷々々氣象表參照)

氣候ハ概シテ大陸的ニテ冬季一月ヨリ四月迄ハ偏北及偏北東ノ風流行シ乾燥セル強烈ナル北風一兩日ニ互リテ連吹シ氣温零下二度附近ニ降ル下層ニシテ稀ニ三五度以下ニ度内外ニ及ブアアリ而テ其最モ顯著ナル一月月中旬ヨリ二月中旬ニ至ル間ニ在リテ此期間遠河ハ堅氷ニ閉サレ氷層ニ吹内外及ビ概又ハ *Changchun* ニテ交通ス又冬季ハ其始メニ降雪ヲ見テ常トシ四乃至五寸ニ達スルコトアルモ爾後概シテ乾燥シテ晴天多ク降雪ハ時

ニ之ヲ見ルニ過ズ

夏季六、七、八月ノ流行風ハ偏南西ニシテ南東至南西間ヨリ吹キ来ルヲ常トス。氣温ハ七月最高ニ達シ時ニ約三十五内外ニ達スルコトアリ然レ共此高氣温ニ數日ニ過ズ而モ一日中ノ數時間ニシテ朝夕ハ格別苦熱ヲ覺スエハルヲ普通トス。雨量ハ七月八月最モ多ク一箇年ノ降水量ノ約半ニ達スルコトアリ又時ニ豪雨至リテ高潮時河水氾濫スルコトアルモ斯クハ極メテ稀ナリ

春秋ニ季々比較的短ク風向甚ム不定ニシテ而モ風力比較的強ニ特ニ警戒ヲ要スルハ九月、二月ニ於テ偏南ノ風時ニ降雨ヲ伴ヒ前兆ナリシテ突然偏北西又ハ偏北ニ轉ジテ約一二時間強吹スルコトアリ
結氷ニ二月ヨリ三月迄ヲ常トシ遠河ノ開閉ハ年ニ依リ多少ノ遲速アリ而シテ結氷ノ厚サ九乃至二十四吋ノ間ニ在リ、二月末ニ至リ尚末ダ結氷ニ開サレザルコトアルモ此頃ハ既ニ流水アリテ航行危險ニシテ航路標識ハ結氷期約一ヶ月前ヨリ撤去セラル

三、安東 (鴨綠江)
ハ二遺紀情報第五三号「寰球遊覽」口湖江記事参照

鴨綠江

鴨綠江ハ河口西南向ト其東南東方約三哩ナル鐵山半島トノ間ニ位シ淺堆散在シ